



高齢者一人ひとりが  
自分らしく健やかに安心して暮らせる  
“幸せやまがた”の実現を目指して

山形県知事 吉村美栄子

本県の高齢者数は、2019年(令和元年)10月現在で約35万8千人、高齢化率は33.4%と、実に県民の3人に1人が高齢者という全国有数の高齢県となっており、また、国立社会保障・人口問題研究所によりますと、高齢者数は2025年(令和7年)の約36万6千人でピークを迎える見込まれていますが、年少人口・生産年齢人口の減少に伴い高齢化率は今後も上昇し続け、2040年(令和22年)には本県の高齢化率は41.0%に達すると予測されています。

このように高齢者が増加し、高齢化が急速に進展する中で、県民の皆様が自分らしく健やかに安心して暮らし続けるためには、県民一人ひとりの健康づくり、介護予防活動等への取り組みや認知症施策、在宅医療との連携強化に加え、介護人材の確保や危機管理下における介護サービス継続のためのネットワーク構築による連携強化、さらには地域を丸ごと支える包括的な支援体制の構築など、地域における高齢者の暮らしを支える環境の整備や介護サービスの確保などが重要となってまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、日常の生活が大きく変容し、「人と人との距離の確保」や「マスクの着用」などの「新しい生活様式」の実践と定着が求められており、感染防止対策と、高齢者の心身の機能維持の両方に配慮した対応が必要となっています。

これらの課題を踏まえ、本計画では基本目標として、「高齢者一人ひとりが自分らしく健やかに安心して暮らせる“幸せやまがた”の実現」を掲げ、団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年(令和7年)、そして団塊ジュニア世代が高齢者になる2040年(令和22年)を見据え、様々な課題に対応しながら地域包括ケアシステムを更に深化・推進することで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていくことのできる地域共生社会の実現に寄与してまいります。

県といたしましては、本計画の基本目標等を踏まえながら、“幸せやまがた”の実現に向け、「介護予防や認知症施策、在宅医療との連携を推進」「介護サービスの充実とサービスを提供する基盤の強化」「高齢者が安心して暮らせるための地域共生社会の実現」の3つの柱に基づき、必要な施策を進めてまいりたいと考えておりますので、県民の皆様、市町村及び関係機関・団体等の皆様のより一層の御理解と御協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定に当たり、御意見等をいただいた山形県高齢者保健福祉推進委員会の委員の皆様をはじめ、市町村、関係団体の皆様から感謝申し上げます。

令和3年3月